

# 被覆資材を利用したコンテナ植木の抑草技術

農林総合研究センター（森林・緑化研究所）

キーワード：植木類、雑草、防除、被覆

## 1 技術の特徴

植木の出荷形態は、ガーデニングに見られる消費者の生活様式の変化や公共緑化工事の仕様の変更等により、従来の根巻き物に替わり、ポリポットやプラスチック鉢などの容器を使った鉢物（コンテナ植木）へ移行している。しかし、コンテナ植木栽培では、省力的な除草方法が開発されておらず、除草作業に多大な労力を要している。

このため、被覆資材を利用し省力的なコンテナ植木の抑草技術を開発した。遮光率99%の被覆資材を鉢および鉢土表面に隙間なく密着させて被覆することにより、高い抑草効果が得られた。人力除草と比較して約20%コスト削減できる。

## 2 技術内容

### (1) 被覆資材による抑草

ア 6号鉢(直径およそ18cm)では、30cm四方の被覆資材に15cm程度の切り込みを入れ(図1)、植木の幹を挟み込む。被覆資材の灰色部を重ね合わせ、鉢・植木および被覆資材を鉢土表面に隙間なく密着させ、紐などで固定する。被覆資材はかん水時に水が入りやすいように、中央部分を低くする(写真1)。

イ 5月にコンテナ植木の鉢表面を被覆した場合、無処理区、被覆資材A(遮光率75%)、被覆資材B(遮光率90%)では雑草が発生したが、被覆資材C(遮光率99%)ではほとんど雑草は発生しなかった(図2)。

ウ 被覆資材を隙間なく密着させて被覆すると雑草種子の侵入を防止できるだけでなく、光の差し込みが妨げられるため、用土に雑草種子が混入していた場合でも雑草の生長を抑制できる。

### (2) 被覆時のかん水方法

かん水管理は通常と同様に行う。

### (3) コスト

人力による除草と比較して、除草に要する人件費が削減できるため、コストが約20%削減できる(表1、表2)。

## 3 具体的データ

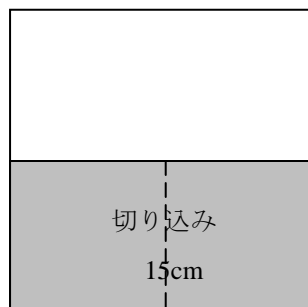


図1 6号鉢用30cm四方被覆材



写真1 鉢と植木の被覆状況

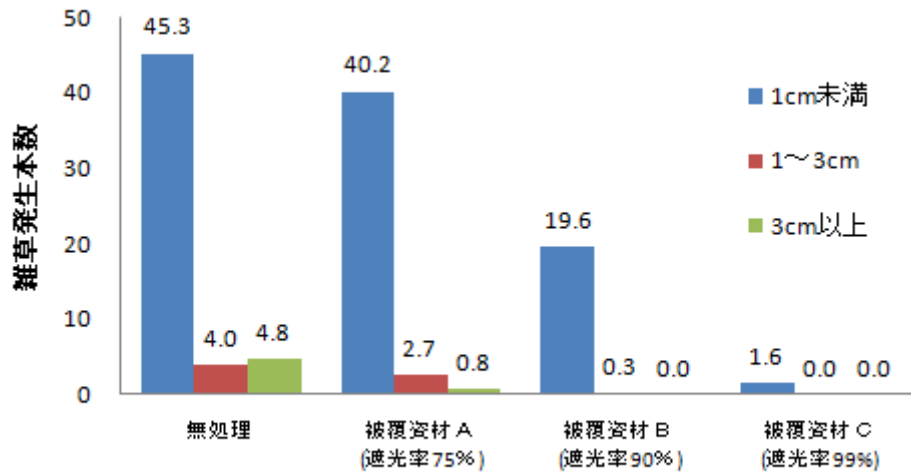


図2 11月17日の雑草発生本数(設置5月23日)

表1 6号鉢被覆時の経費(試算)

1,000鉢当たり

名称(規格・寸法)	単位	数量	単価	金額	摘要
ラブシート(21102BUG)	本	0.6	27,589	16,553	幅150mm 長さ100m 1本から1666箇所
マイカ線	巻	2.0	1,780	3,560	1巻500m 1箇所1m使用
軽作業員	人	2.08	6,400	13,312	被覆作業
計				33,425	
				1鉢当たり	33

表2 人力による除草(出荷まで2回除草)時の経費(試算)

1,000鉢当たり

名称(規格・寸法)	単位	数量	単価	金額	摘要
軽作業員	人	6.25	6,400	40,000	除草作業、40鉢/h
計				40,000	
				1鉢当たり	40

#### 4 適用地域

埼玉県全域

#### 5 普及指導上の留意点

被覆資材の選定に当たっては、遮光率のほか、ほつれにくさなども考慮する。

#### 6 試験課題名(試験期間)、担当

コンテナ植木の効率的除草技術の開発(2008~2010)、森林・緑化担当